

# 社会福祉施設 新型コロナウイルス感染症 施設内発生時対応 チェックリストⅡ

地域などで感染発生情報がある場合や施設内で陽性者が発生した場合は、施設管理者に報告の上、以下のチェックリストに基づき速やかに対応を開始しましょう。

項目		ポイント
<b>感染予防対策：拡げない</b>		
1	<input type="checkbox"/> 常時、職員は不織布のマスクを着用する 入居（利用）者はデイサービスなど集合する場合や場所では不織布のマスクをする	感染発生に限らず、平時からの対策ができてることが重要です。
2	<input type="checkbox"/> 利用者がマスクを着用できない場合は、距離（2m）をあける、または目の保護をする	●利用者にも施設からお願いして、極力マスクをつけてもらいましょう。
3	<input type="checkbox"/> 利用者に触れる前後には手指消毒を行うよう周知しており、利用者にも指導している	
4	<input type="checkbox"/> 吸引、食事介助、口腔ケア、入浴介助、おむつ交換時は、マスクと目の保護をする 陽性者への対応には、常時N95マスク（ない場合は不織布マスク二重）を着用する	●顔を近づけて話す場面でも、マスクやフェイスシールドは取らないように意識しましょう。
5	<input type="checkbox"/> 吸引、おむつ交換時の手袋・エプロンは個々に、その都度交換・手指消毒している	●陽性者対応する場合や職員を含めての発生がある場合は、職員はN95マスクを着用します。（着用方法を再確認）
6	<input type="checkbox"/> PPEを適切に着用する。陽性者のケア後は必ずPPEを脱いで新たに防護具を着用する ＊サージカルマスクの上にN95マスクは着けない、手袋は二重にしないこと	●CO <sub>2</sub> 濃度1000ppm以下を保つようにしましょう。
7	<input type="checkbox"/> 入居者の就寝中や直接身体に触れない場合のガウンや手袋は、着用しなくてよい	
8	<input type="checkbox"/> 自然換気（窓2か所開放など）や機械換気を利用する等、常時換気を行なっている ＊機械換気は常時オンになっていることを確認している	
9	<input type="checkbox"/> 換気しにくい（窓開放不可など）場所に、サーキュレーターやHEPAフィルター搭載の空気清浄機を配置し、CO <sub>2</sub> 濃度を確認している	
10	<input type="checkbox"/> 休憩室・更衣室等、マスクを外している時の会話はしない。対面を避ける座席の徹底	
11	<input type="checkbox"/> 利用者が集まる（食事、デイケア）タイミングについて、中止予定を検討している	
12	<input type="checkbox"/> 当直室、仮眠室は個人毎にシーツ交換、または個人で準備している	
<b>職員、利用者の健康管理：さらに拡げない</b>		
13	<input type="checkbox"/> 職員は出勤前に必ず体温測定と体調確認をする ⇒いつもと違うときは申告し出勤しない	●ディケアなど外部利用者の健康状況の確認も行う。
14	<input type="checkbox"/> 職員・利用者ともに発熱以外の些細な症状（オミクロン株の症状）に注意する ＊呼吸器症状（咳、鼻水、咽頭痛）、声がれ、頭痛、全身倦怠感、関節痛・筋肉痛、下痢、吐気・嘔吐、味覚障害、嗅覚障害等 ＊高齢者は発熱の頻度が低いので、症状に注意	●症状のある職員は休み、検査で陰性であっても症状経過を確認し、安心はしない。 ●お互い様意識を高くし、症状あるときは休める雰囲気づくりに努めよう。
15	<input type="checkbox"/> 職員に対して、出勤しない日の体温測定、体調管理を行うよう指導する	●症状の程度によっては、人との接触がない作業に従事する工夫を行い、マスクを外さない。
16	<input type="checkbox"/> 職員・利用者共に、毎身体調確認し記録を残す（陽性時、症状経過の確認に有効）	
17	<input type="checkbox"/> 陽性者とマスクなしで、15分以上直接対応した職員の就業状況（ケア内容、場所）について、検討できている	
18	<input type="checkbox"/> 利用中に症状が出現した際の対応についてかかりつけ医（嘱託医）へ確認する ＊特に看護職がない施設は相談体制を再確認する	
<b>発生時の対応</b>		
19	<input type="checkbox"/> 陽性者の接触者（状況によって濃厚接触者）をリストアップする	初動が今後の発生に影響します。迅速な準備や隔離がカギとなるので、速やかに施設内で対応を確認しましょう。
20	<input type="checkbox"/> 初動時の情報共有と意思決定の為に検討会議を開催、議事録を作成して共有する	
21	<input type="checkbox"/> あらかじめ決めていたゾーニング法で陽性者（濃厚接触者）を隔離する	●PPE：長袖ガウンもしくはエプロン、手袋、サージカルマスク、N95マスク、フェイスシールド（またはゴーグル）、キャップ（必要に応じて）が適切に脱衣できるよう、掲示などするとよいでしょう。
22	<input type="checkbox"/> 陽性者（状況によって濃厚接触者）への対応職員を固定する	
23	<input type="checkbox"/> 職員の役割分担を確認し、人員不足時の業務調整を行っている	●陽性者からのごみ類は蓋付きのごみ箱、できれば足踏みにします。
24	<input type="checkbox"/> 個人防護具(PPE)の準備*と、職員の着用方法の確認をする *(例)療養者1人あたりのケアに対する必要更衣回数/日×療養期間+α(約10日間)(×療養者数)で予測	
25	<input type="checkbox"/> 消毒物品の予備を確認する（2週間分は準備）	
26	<input type="checkbox"/> 感染性廃棄物の廃棄方法を周知する（多量の廃棄物が出る可能性）	
27	<input type="checkbox"/> 施設を所管する県、市の担当部署へ速やかに報告する	
28	<input type="checkbox"/> 施設の嘱託医・協力医に報告し、対応（治療薬や処置など）について助言を得る	
<b>施設管理</b>		
29	<input type="checkbox"/> 手洗い場に、ハンドソープ、ペーパータオルを設置する	●アルコール濃度は70%以上、次亜塩素酸ナトリウム濃度は0.05%を維持します。次亜塩素酸水は濃度が不足し発生時の消毒には不向きです。
30	<input type="checkbox"/> 居室の前などに手指用アルコール消毒剤の配置、または携帯型手指消毒剤を携帯している	●手の消毒（手指消毒剤は保護剤入り）と環境清掃用は別に入ります。
31	<input type="checkbox"/> 手が頻回に触れる場所は1～2回/1日程度、環境用消毒剤（アルコールクロス、次亜塩素酸ナトリウム溶液や界面活性剤：住宅用・台所用洗剤）などで消毒する	●環境への噴霧や身体への噴霧は禁止です。
32	<input type="checkbox"/> 換気扇などの機械換気のスイッチは、常時稼働している（可視化できる）	